

記者会見要旨
(2026 年 9 月 4 日)

I 会長挨拶

1. 本日は記者会見にお越しいただきありがとうございます。協会会長としてご挨拶申し上げます。
2. この記者会見の後、日本公認会計士協会の研究大会が開催される予定です。
3. 日本公認会計士協会の研究大会は、1979 年に第 1 回が開催され、それ以降毎年各地域で開催していましたが、東京では、2014 年以来 12 年ぶりの研究大会開催となります。
4. 研究大会の詳細につきましては、このあと研究大会実行委員会委員長からご説明いたします。本日は会員の日頃の研究成果をご覧いただける機会でございますので、ぜひ、メディアの皆様にも研究大会にご参加いただければと考えております。
5. 研究大会の説明の前に、最近の協会及び業界の主な動向について説明させていただきます。お手元の＜資料 1＞をご覧ください。
6. 7 月 28 日には、日本監査役協会から「監査役等による会計不正への対応－予兆の早期把握と予防の徹底－」が公表されました。
7. 当該文書は、近年の会計不正の事案に合わせ、予兆の把握や予防のための体制整備に向けた監査役等の視点によるポイントや提言が整理されています。
8. 文書の作成に当たっては、当協会の監査・保証担当常務理事も参画いたしました。当協会ウェブサイトでも周知協力しております。
9. 最近報道されている複数の上場企業における会計不祥事に関しても分析されており、各種会計不正を防ぐための予防・体制整備について、いわゆる三様監査、監査役会等の監査と会計監査人及び内部監査部門との連携が挙げられておりますので、ぜひご参照ください。
10. 8 月 6 日には、協会から「上場会社等の監査を行う監査事務所の適格性の確認のためのガイドライン」を改正しました。
11. 本改正は、2025 年度の品質管理レビューの実績及び最近の新規上場会社等の会計不正事例を踏まえ、ガイドラインの見直しを行ったものとなります。
12. 例えば、収益認識に関する不正リスクについては、最初にしっかり識別できているかどうかでその後の監査手続に大きく影響すると考えられることから、会員事務所に指導を行うとともに、適格性のガイドラインによる確認を実施していきたいと考えています。
13. 8 月 31 日には、キャパシティ・ビルディングを想定した中小監査事務所交流イベントを開催しました。
14. 監査法人ガバナンス・コードにおきましては、6 つの経営基盤が明示されています。特に、人材投資や AI をはじめとした IT 投資は、監査品質を高めていく上で非常に重要な要素となります。
15. このような人材投資及び IT 投資を強化するためには、一定の経営基盤が必要であると考えております。

16. 当該イベントは、中小監査事務所間での直接的な情報交換や、関係構築ができる機会を提供するものです。
17. 単なる規模拡大を目指すものではなく、経営基盤の強化や、監査品質の向上を目指す事務所同士の交流の場を設けるイベントであるにご理解いただけますと幸いです。
18. また、協会が特定の事務所間の合併を主導・仲介することを意図したものではありません。
19. 今後の開催は、イベント後のアンケート等を参考に検討してまいります。
20. 当日は、約 60 中小監査事務所から 100 名以上が参加し、非常に活発な意見交換が行われました。
21. また、9 月 2 日に、プレスリリース「会員の懲戒処分について」及び「登録上場会社等監査人による監査の信頼性向上に向けた取組（続報）」を公表しました。
22. 本件については、昨年 8 月に調査開始のプレスリリースを公表しました。本年 1 月 26 日には調査結果や監査事務所に対して再発防止の取組を促すプレスリリースを公表し、会員に周知徹底を行いました。
23. その上で、今回は処分が確定した旨のプレスリリースを公表した次第です。

Ⅱ 「第 47 回日本公認会計士協会研究大会 2026」について

24. 本日、ホテルニューオータニにおきまして、第 47 回日本公認会計士協会研究大会 2026 を開催いたします。
25. この研究大会は、会員の研究成果を全国の会員の前で発表するとともに、外部有識者、実務家等から研究成果を発表してもらうことにより、知識の吸収及び資質の向上を図ること、社会との親交を深め、公認会計士の意見発信の場を提供するといった趣旨で開催しています。
26. 本日は全国より 1000 名近い公認会計士が一堂に会し、株式会社ディー・エヌ・エー代表取締役社長の南場 智子氏による記念講演ののち、15 の研究発表を行い、その後記念パーティーを執り行います。
27. また、明日には会員の交流を深める、各種エクスカージョンが企画されています。
28. 今回の研究大会のテーマは「未来を切り拓く信頼と変革の力～持続可能な社会を実現するための公認会計士の使命～」としております。このメインテーマの趣旨について説明をさせていただきます。
29. 2027 年 3 月期より、東証プライム市場において、サステナビリティ情報開示の義務化が順次始まるなど、持続可能性の観点からの情報開示は、単なるコンプライアンス対応を超え、企業が企業活動全体を通じた社会的価値を示すための不可欠な手段となっています。
30. また、透明性向上への社会的要請や、生成 AI をはじめとするデジタル技術の進展を背景に、公認会計士が提供する保証分野の拡大や専門性の高度化も見込まれています。
31. 本テーマでは、公認会計士の専門的な知見に加え、新たな技術も適切に活用

- しながら、情報開示を通じて信頼を築く新たな枠組みについて議論します。
32. 本大会では、国際的な金融・経済の中心地である東京を舞台に、「信頼と変革の力」を探求し、情報開示の深化と技術革新が生み出す新しい価値を通じて、未来の経済社会を切り拓く道筋について考えてまいります。
 33. 次に、本大会の特徴について2点ご説明します。
 34. 1つ目はAIです。記念講演では、南場氏に「日本のアップデートに挑戦するDeNA」と題して「企業がAIとどう向き合うのか」についてお話いただき、研究発表においてはAIに関連した3つの発表が行われます。これらを通じて、「公認会計士がAIとどう向き合うのか」について考えます。
 35. 2つ目はアカデミアの参加です。15の研究発表のうち3つについては、日本会計研究学会、日本監査研究学会、日本学術会議のアカデミアの皆様にご登壇いただき、公認会計士だけの視点ではない研究成果が発表されます。
 36. また、本日はこの成果を記者会見にお越しの皆様にもご覧いただける機会でございますので、皆様にも、ぜひ、研究大会にご参加いただき、公認会計士へのご理解をより深めていただければと思います。

以 上